

企画展示「税の歴史をひもとくと ～貢納から地租へ」を 開催します

収穫の喜びもつかのま、江戸時代には多くの地域で11月末日(旧暦)が年貢納付の期限でした。そこで江戸時代に池田氏が岡山藩主になった翌年の慶長9年(1604)の検地帳など、岡山市立中央図書館が所蔵する納税関係の歴史資料を展示して、江戸時代の社会を考えます。

1 日時

令和5年12月21日(木)～令和6年2月4日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし1月8日は開館)、および12月29日(金)～1月4日(木)

開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール前 展示コーナー(北区二日市町) <入場無料>

3 内容

・年貢米を領主へ村単位で納めた江戸時代から、個人が政府へ税金を納める近代まで、徴税は手続きが厳密で、文書も多く作成されました。残った文書から当時の社会を知ることができます。

・江戸時代には、検地で村ごとに基準の石高を定め、その年の作柄を加味して年貢高を決めました。これを個々の耕作者に割り当て、期限までに集めて領主に納めるのが村長の責務でした。

・そこで岡山市立中央図書館の資料から、検地帳、耕地絵図、領主から村へ宛てた毎年の年貢の請求状など約30点を展示し、江戸時代の農村社会を考え、明治時代の地租改正を展望します。

4 関連講座

日時・題 令和5年12月23日(土)14時～16時「江戸時代の年貢にかかわる資料」
令和6年1月14日(日)14時～16時「明治時代の地租改正と地図作成について」
会場等 岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール 先着60名(申込不要) 聴講無料
講師 飯島章仁(当館学芸副専門監)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・沖田 直通086-223-3373

おもな展示品

○慶長9年(1604)の検地帳(村で保管してきた控え帳のほう)



江戸幕府成立の翌年、慶長9年の検地帳(写真は上道郡海面村の田方と畠方。現在の岡山市中区海吉)です。耕地面積を測り、上・中・下に等級づけ、基準の石高を把握したものです。

○慶安3年(1650)の定免相(年貢の請求状)



岡山藩の代官が海面村の庄屋へ宛てた、その年の年貢の請求状です。検地石高は1441石余ですが、その年の作柄で税率を掛け、さまざまな経費を加え、743石余の年貢を請求しています。これを村民の間で「割符」し、「来る十一月中に」納付するように命じています。村人に死者や失踪者があっても定められた石高を共同責任で完納するように要求しています。

○上道郡福吉村の絵図



海面村に隣接する、福吉村の文政年間の絵図です。ひとつひとつの耕地に番号が記され、上・中・下の等級と、耕作者の名前が記入されています。農民が耕作地を離れることを表向きは禁じていた江戸時代にあっても、次第に住民の移動が多くなりました。村々では詳細な絵図を作成し、検地帳に耕地の番号を追記して対照させ、耕作者を把握するようにしていました。